規博オリジナルクイブ



QIの答え





Q2の答え



明治16年6月8日に叔父の加藤拓川から手紙を受け取った子規さんは、10日に三津浜 明治216年6月8日に叔父の加藤拓川から手紙を受け取った子規さんは、10日に三津浜 を出発しました。船に乗って横浜へ向かい、そこからは完成したばかりの汽車に 乗ってようやく東京に到着しました。

拓川おじさんから「東京へ来い」という手紙が来たとき、それはそれは うれしかったわい。でも初めてのひとり旅やけん、三津から船に乗るとき はとても心細かったんよ。



Q3の答え

ほととぎす

「ほととぎす」は口の中が赤い鳥で、なくたびに血をはいているようにみえます。子規さんはそんなほととぎすに血をはいた自分を重ね合わせて、

「子規」というペンネームを使うよう になりました。

がのまとびと 竹乃里人 のぼっさい 野球 獺祭書屋主人 まくしゅじん 野球 瀬祭書屋主人 まうまう 老櫻 あんとくさい 大鬼

あしは100個以上も ペンネームを使うたんぞな。



Q4の答え

新聞日本

子規さんは25歳で日本新聞社へ入社して、新聞記者として働きました。 文芸欄という部分を担当して、俳句や短歌を募集していました。

~ しまい し しょうにっぽん へんしゅうちょう っと 27歳のとき、「日本」の姉妹紙「小日本」の編集長も務めたんぞな。

「小日本」でも小説や紀行文を書いたり、俳句の募集をしたりしとったんよ。



Q5の答え



भारत करा 鞄の文字は子規さんが自分で書いたものです。

子規さんが清国へ到着した時、戦争は終わりに 近づいていたので、子規さんが実際に戦いを見 ることはできませんでした。

しんこく さっか もりおうがいせんせい あ 戦いを見ることはできんかったけど、清国で作家の森鷗外先生と会ったんよ。 まいにち あが 毎日のように鷗外さんのところへ行っては、文学の話で盛り上がったわい。



Q6の答え





まっやまちゅうがっこう げんざい ひがしごうとう れい こ きょう し 漱石さんは明治28年の4月から、松山中学校(現在の松山東高等学校)で英語教師と して働いていました。

ゃだがら 愚陀佛という漱石さんの俳号にちなんでこの家は「愚陀佛庵」と呼ばれます。

子規博の常設展示室には、愚陀佛庵の1階部分が再現してあります。

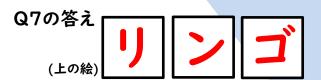
子規さんたちになりきって写真を撮ってみてください。

愚陀佛庵の1階にあしが、2階に漱石が住んどったんぞなもし。

52日の間に漱石たちと道後や松山を一緒に散策したんは楽しかったのう。

東京に戻るまで、がいに(たいそう)世話になったわい。





(下の絵) パナナ

子規さんは、少年時代から絵をない。 が好きでした。病気が 描くことが好きでした。病気が 変になってからも、薬に 飲んで痛みが和らぐ少しの時間 を使って、一定の章花や身の の物を夢で、描きました。

なかがら、せつ いさい く はい しゅうかいどう 中村不折くんにもろた水彩絵の具を使って初めて描いた「秋海棠」の絵は、よーけ ほめてもろうて、うれしくてたまらんかったわい。



Q8の答え



ちま

- ◆糸瓜咲て痰のつまりし佛かな
- ◆痰一斗糸瓜の水も間に合わず
- ◆をとといの糸瓜の水も取らざりき

この3句は、どれも「へちま」を題材にしていることから、子規さんの命日は 「糸^な点 急」とも呼ばれています。

へちまは痰を切る薬として使うとったんよ。妹の律に紙を貼った画板を持ってもろて、あおむけに寝ころんだまま、この3句を詠んだんぞな。



何問正解しとった?

あしの事、もっと詳しく

なっておくれな!

